

容易に喜んで信じる

七十人

マイケル・T・リングウッド長老

神の御言葉を容易に喜んで信じるのに必要な和らいだ心は、日々福音に従って生活する中で生まれるのです。

この数か月、わたしはヒラマン書第6章にある聖句に何度も引き付けられました。「またこのことから、レーマン人が主の言葉を容易に喜んで信じたので、主が彼らに主の御霊を注ぎ始められたことも分かる。」（ヒラマン6：36）

個人の聖文研究でこの聖句を読み、深く感動したわたしは、何週間かこの聖句について考えました。自分にとって神の御言葉を信じることは容易に思えるだろうかと自問するようになりました。心を改めたレーマン人にとって、信じるのが容易だったのはなぜでしょうか。憎悪と不信仰に満ちていた人々が、神の御言葉を容易に喜んで信じるようになったきっかけは何だったのでしょくか(4ニーファイ1：39参照)。

このような変化が起こった理由は、最もすばらしい年となった、さばきつかさの統治第62年の出来事を通して分かります。この年、ニーファイとリーハイは教えるべき事柄を示され、力と権能をもって教えました。すると、ゼラヘムラに住む8,000人のレーマン人が改宗したのです（ヒラマン5：18－19参照）。さらに300人のレーマン人が、心の底まで貫く声を聞くという奇跡的な経験によって改宗しました（ヒラマン5：30参照）。この300人のレーマン人は、牢に入れられていたニーファイとリーハイを殺すために来ていました。しかし、かつてはニーファイ人で、教会から離反していたアミナダブが、キリストを信じる信仰を持てるまで祈らなければならないことを思い出して伝えると、彼らは神を呼び求めました（ヒラマン5：35－41参照）。この300人が民を教え導き、見聞きしたことを告げ知らせると、彼らの証を通してさらに多くのレーマン人が改宗しました（ヒラマン5：49－50参照）。

第62年に起こった話は次の言葉で終わっています。「これらのことがすべて起こり、レーマン人はその大半が義人になっていた。」（ヒラマン6：1）

このレーマン人の改宗は、ニーファイ人への憎悪と武器を捨てるほどのものでした（ヒラマン5：51）。彼らは確固として揺ぎない信仰を抱いていました（ヒラマン6：1参照）。神の戒めを守り、真理にかなってまっすぐに歩んでいました（ヒラマン6：34参照）。また、神を深く知るようになりました（ヒラマン6：34参照）。

それでもわたしが最も感銘を受けたのは、彼らが神の御言葉を容易に喜んで信じたという点です。容易に喜んで信じたために、あふれるほど豊かに御霊を受け、最後まで信仰をもって堪え忍ぶ助けを得ることができました（ヒラマン15：5－9参照）。

残念ながら、同じ時期のニーファイ人の多数は、「かたくなになり、悔い改めを

せず、非常に邪悪にな〔りました〕」（ヒラマン6：2。31－34節も参照）。ニーファイ人の間では、レーマン人の経験とは反対のことが起こっていました。心がかたくなだったので、主の御霊がニーファイ人から去ってしまったのです（ヒラマン6：35参照）。一方、レーマン人の心は和らいでいたので、あふれるほどの御霊が注がれました。

レーマン人の心にこれほど大きな変化が起こった理由を深く考えていると、容易に喜んで神の御言葉を信じる姿勢は、心が和らいでいたから生まれたのだと分かるようになりました。そのような姿勢は、聖霊に敏感な心から生まれます。愛することのできる心から生まれます。聖約を交わし、聖約を守る心から生まれます。そして、キリストの贖いの力を感じられる、和らいだ心から生まれるのです。

こうした容易に信じる姿勢は、ニーファイとリーハイといった、和らいだ心を持ち、実際に容易に信じた人の模範から生まれます。二人の父であるヒラマンは、先祖の信仰を思い起こさせるために、息子たちをニーファイ、リーハイと名付けました（ヒラマン5：6参照）。同様にわたしたちの多くも、自らの名前に、和らいだ心を持ち、神の御言葉を信じるのを容易と感じていた先祖から受け継いだ信仰を刻んでいます。そのような先祖の中に、わたしの高祖父エフライム・K・ハンクスがいます。高祖父は、自分の兄が「モルモンの仲間に加わった」ことを知り、家に連れ戻そうと決意します。はたして、エフライムは兄がジョセフ・スミスと回復された福音について証するのを聞くと、ノーブーに移り住み、バプテスマを受けたのです。（リチャード・K・ハンクス, *Eph Hanks, Pioneer Scout*, [修士論文, ブリガム・ヤング大学, 1973年] 18－21)

わたしたちは聖文に登場する人々の模範にも恵まれており、どうすれば容易に喜んで信じることができるか学ぶことができます。リーハイの息子ニーファイがその良い例です。父親からエルサレムが滅びると教えられたとき、ニーファイが最初に行った行動は、心が和らぐまで主に叫び求めることでした。そして、父親の語った言葉をすべて信じました（1ニーファイ2：16参照）。主は直接ニーファイに語りかけ、こう言われました。「ニーファイよ、あなたは信仰があるので幸いである。あなたがへりくだった心で、熱心にわたしを求めたからである。」（1ニーファイ2：20）ニーファイは、「わたしは行って、行きます」と容易に言えるよう、戒めを守り神に呼び求めるに当たって、望みと勤勉さが大切であると教えています（1ニーファイ3：7）。

エノスからは、真理に飢え渴くまで神の御言葉を心に深くしみ込ませることの大切さを学ぶことができます（エノス1：3－4参照）。容易に信じる姿勢は、神の御言葉が心に刻み込まれるときに生まれます（エレミヤ31：33；2コリント3：3参照）。

ラモーナイの父親の模範からは、喜んで変わろうとする和らいだ心の大切さを学ぶことができます。ラモーナイの父親は、命と引き換えに王国の半分を喜んでアンモンに与えると言いました（アルマ20：21－23）。アンモンが要求したのは、王がラモーナイに自分の王国で望むままに礼拝できるようにすることだけでした。アンモンの言葉が寛大であり偉大であったので、王は心に思い悩みました（アルマ20：24；22：3参照）。アロンが王を教えるために到着したとき、王の心はすで

に変化し、アロンへの次の言葉から分かるように、容易に信じることができるようになっていました。「見よ、わたしは信じよう。」（アルマ22：7）王は、主の与えてくださる喜びにあずかるためなら、喜んで持ち物をすべて捨て、王位を譲ってもよいとまで言いました（アルマ22：15参照）。王は初めて祈ったとき、天の御父が望まれるものを差し出しました。「わたしはあなたを知〔る〕ように、自分の罪をすべて捨てます。」（アルマ22：18）神の御言葉を容易に喜んで信じる姿勢は、悔い改めと従順から生まれます。

人生をつぶさに振り返ると、神の御言葉を信じることがより容易に感じられた時期が分かるでしょう。結婚、子供の誕生といった大きな変化の時期、新しい召しや伝道などで集中的に奉仕した時期、すばらしいビショップ、青少年の指導者、セミナー教師とともに過ごす青少年の時期、試練の時期、福音について初めて学び、成長する時期、これはすべて、より容易に信じられる時期です。恐らく最も大切な時期は子供時代でしょう。子供のころのわたしにとって、立派な両親や祖父母が教えてくれる神の御言葉を信じるのは容易でした。永遠の命を受け継ぐには幼子のようにならなければならないと戒められるのも不思議ではありません（3ニーファイ11：38参照）。「〔わたしたちの〕子供たちを光と真理の中で育てるように」という教えがあるのは当然のことと言えます（教義と聖約93：40）。

皆さんがわたしと同じようであるなら、容易に喜んで信じるという姿勢をほんとうに形作ってくれたのは、環境ではなく、人生のこれらの時期にした、福音に生きる決意だったということが分かるでしょう。これらの時期に、皆さんはもっと頻繁にひざまずいて祈り、聖文の研究に没頭していました。家族とともに集まって家庭の夕べを開き、家族の祈りをささげることが、もっと容易だと感じていました。教会に出席し、神殿で礼拝することを容易だと感じていました。什分の一とささげ物を納めることを容易だと感じていました。事実、神の御言葉を容易に喜んで信じるのに必要な和らいだ心は、日々福音に従って生活する中で生まれるのです。

この大会で預言者と使徒が語る教えに従うならば、神の御言葉を容易に喜んで信じることができるになると証します。わたしたちは神殿で礼拝するように勧められています。定期的な家族の祈り、聖文研究、家庭の夕べを通して家族を強めるように、神権の召しや教会の召しにあって勤勉に奉仕するように、什分の一とささげ物を納めるように、信仰を持つように、導きを祈り求めるように、聖霊を伴侶とするにふさわしい生活を送るようにと勧められています。

わたしたちは、重い皮膚病を患っていたスリヤ人ナアマンのようになりがちです。ナアマンは、清めてもらうためにイスラエルの預言者のもとへ遣わされました。しかし、ただ使者を送ってヨルダン川に7回入るようにと指示を与えただけのエリシャに腹を立て、去ってしまいます。幸運なことに、ナアマンには次のように言った僕がいました。「預言者があなたに、何か大きな事をせよと命じても、あなたはそれをなさらなかったでしょうか。まして彼はあなたに『身を洗って清くなれ』と言うだけではありませんか。」（列王下5：13）

青少年のときから繰り返し教えられる、ささいに見えることを実行するなら、容

易に喜んで信じることができるようになると証します。従順であれば心が和らぎ、神の御言葉を容易に信じることができるようになります。容易に信じることで、あふれるほどの御霊が与えられると証します。

毎週出席する聖餐会は、自分がどれほど容易に喜んで信じているかを測るテストであると言えます。この集会で、わたしたちは進んで御子の御名を受け、いつも御子を覚え、御子が与えてくださった戒めを守るという意志を示し、聖約を新たにします（教義と聖約20：77参照）。聖餐会に出席するとき、これらのことを聖約するのが容易であり、聖霊によって聞き、学ぶことが容易であると感じるはず です。

わたしは「容易に喜んで主の御言葉を信じること」で、主の御霊が自分に豊かに注がれるよう切望しています。この聖句は自分の「神への義務感」つまり、わたしが「従順で素直であり、容易に勧告に従い、忍耐……に富み、……いつも熱心に神の戒めを守〔り〕、……〔わたしに〕与えられるものについては何であろうといつも神に感謝する」べきだということを感じさせてくれたと感じています（アルマ7：22-23）。

わたしたちがいつも神の御言葉を信じるのを容易と感じることができますように。皆さんがわたしと同様、イエスが神の御子であられることを容易に宣言できますように。イエス・キリストはわたしたちの羊飼いです。容易に喜んで信じる人は主の御声を知ることでしょう。イエス・キリストの御名によって、アーメン。